ロン＝ティボー国際コンクール（2010）エリザベート王妃国際音楽コンクール（2012）、仙台国際音楽コンクール（2013）でそれぞれ第２位受賞。
これまでに、ペトル・アルトリヒテル、オーギュスタン・デュメイ、ピエタリ・インキネンなど著名指揮者や国内外オーケストラと多数共演している。
2018 年８月と翌２月に韓国で行われた平昌音楽祭に参加し、ソン・ヨルム、スヴェトリン・ルセヴらと共演。2018 年にはミンスクで行われたユーリ・バシュメット音楽祭にも参加している。使用楽器は、アントニオ・ストラディヴァリ黄金期の "Tartini" 1711 年製。（宗次コレクションより貸与）。

成田 達輝
（ヴァイオリニスト）

コロン えりか
（ソプラノ歌手）

聖心女子大学・大学院で教育学を学んだ後、英国王立音楽院を優秀賞で卒業。同年ウィグモアホールデビュー。モーツァルト・フェスティバル（ブリュッセル）、宗教音楽祭（フィレンツェ）、日英国交 150 年記念メサイア（ロンドン）でソリストを務めるなどオラトリオの分野に力を注ぐ。代表曲は、父エリック・コロンが平和への願いを込めて作曲した「被爆のマリアに捧げる讃歌」。東日本大震災以降、エル・システマジャパンの立ち上げから、ホワイトハンドコーラス設立にも携わり、耳の聞こえない子どもを含む様々な障害を持つ子どもたちに音楽を教えている。現在エルシステマ・コネクト代表理事、ホワイトハンドコーラス NIPPON の芸術監督を務めている。

ウクライナ・プリピャチ生まれ（チェルノブイリ原子力発電所から 2.5km 離れた町）生後 30 日の時にチェルノブイリ原発事故に被災し、一家は町から強制退去させられる。6 歳の時にチェルノブイリ原発で被災した子供たちで構成された音楽団「チェルボナカリーナ」に入団後、海外公演に多数参加。日本にも何度もコンサートに招聘され、その時に日本の素晴らしさに感動し、19 歳の時に音楽活動の拠点を東京に移す。現在、日本に２人しかいないバンドゥーラ奏者の１人として、国内外のさまざまなコンサートで公演活動を展開中。

カテリーナ
（バンドゥーラ奏者）

渡邊 裕美子
（ソプラノ歌手）

いわき市出身。武蔵野音楽大学声楽科卒業。大学３年次に学術優秀者に選ばれ、福井直秋記念奨学生 324 号となる。武蔵野音楽大学主催オペラ公演「フィガロの結婚」で主役「スザンナ」を好演。音楽同人「音楽の泉」定期公演に連続出演。いわき市主催「第５回いわき女性の翼」団員としてヨーロッパ視察研修に参加。「こころを声にのせて ソプラノリサイタル」、ソプラノミニコンサート インハートフルなこそⅠ～Ⅹ、「童謡コンサート」を毎年開催。2018 奈良・薬師寺の観月会にて奉納演奏。現在コーラス３団体の指揮者。幼稚園での「お歌の教室」を指導。いわき市ピアノレスナー協会 会員。

日本遺産大使。重要無形文化財総合認定保持者。能楽囃子大倉流大鼓、小鼓の宗家に生まれる。父・大倉長十郎、祖父・大倉長右衛門より稽古を受け、9 才で小鼓初舞台。17 才で大鼓に転向した。能楽の公演他、世界各国の首脳・VIP 来日時等、首相官邸晩餐会での演奏や政府主催の音楽祭に参加。バチカン宮殿ローマ法皇の御前において、日本代表として演奏。東京ドームで行われた MLB メジャーリーグベースボール開幕戦オープニング式典に出演。国内外のアーティストとの共演等、国際文化交流の場で活躍。CM・ドキュメンタリー番組などメディアにも多数出演し、日本の素晴らしい文化を世界に向け発信し続けている。

大倉 正之助
（能楽師）

髙橋 全
（ピアニスト・コンポーザー）

1960 年、名古屋生まれ。ハンブルク国立音楽大学で学び、ヨーロッパの各地でチェンバリスト、オルガニストとして演奏活動を繰り広げた後に帰国。1997 年、朝崎郁恵との共演 CD「海美」をリリース。その後の朝崎郁恵のメジャーデビューの基盤を築く。98 年にはファーストソロ CD「ダンス・オブ・シルエット」をリリース。
以降ピアニスト、作曲家として、自身のソロ CD を 10 枚リリースする一方で、映像音楽の分野での楽曲製作の他、録音エンジニア・CD プロデューサーとしての活動もこなしている。白鳥哲監督の映画『祈り』(2012) と『リーディング』(2018)『ルーツ』(2020) で音楽を担当している。

広島市出身。エリザベト音楽大学演奏学科声楽専攻および同大学院修士課程修了。パリ・エコール・ノルマル音楽院高等コンサーティスト科ディプロムを審査員満場一致の首席にて取得し卒業。またフランス・トゥール地方音楽院や多数のマスタークラスにてバロック声楽を学ぶ。第 19 回大阪国際音楽コンクール歌曲部門 Age-U 部門第２位。バッハ《ヨハネ受難曲》ヘンデル《メサイア》など国内外で数多くソロやアンサンブルを行う。欧米・アジアのフェスティバル等に招聘される。パリ中央室内楽団と共演。新進演奏家育成プロジェクトにて広島交響楽団と共演。マツダスタジアムにて国歌歌唱。現在国内外で演奏活動を行う。

中川 詩歩
（ソプラノ歌手）

那須 シズノ
（祈りの舞・現代舞踊家）

３歳でクラシックバレエを始め、僅か７歳でボリショイバレエの交換留学生に選ばれ 19 歳より舞踊家として活動を始める。舞踊の技と精神を深め東洋 西洋 を超え独自の舞「スパイラルビジョン」を３０代に醸成する。1997 年アメリカ NY にダンス研究所を設立。2001 年 NY での 9.11 を期に世界平和への「祈りの舞」を確立、広島と NY にて「祈り舞」を納め始める。3・11 福島大震災から日本全国にて舞指導再開。2010 年、ハワイ島ボルケーノに稽古場を設立。ハワイの壮大な 大自然 より命の瞬間を深くうけとめ、地球生命への畏敬の念、人間の命の尊さ、世界平和への思いを「祈りの舞」に託して、純粋芸術活動として 世界に発信し続けている。

SUSUMU SAKAGUCHI　坂口 登
（現代美術作家）

1944 年熊本生まれ、12 才で渡米。14 才からオーティス美術大学にて本格的美術教育を受ける。カリフォルニア芸術大学院を首席で修了し後、現代美術最前線であるニューヨークにて 作家活動を続ける。1977 年、N.Y. ノベギャラリーの個展にてイサム・ノグチより認められ、彼が逝去するまでの 10 年間ニューヨーク個人アシスタンを勤めあげる。アーティストの純粋なる意識を通し「自己のルーツ」を見定め、知覚とその変貌を通し独創された独自の絵画形式を醸成する。地球と宇宙を意識する近年、花の色と形を感じとる瞬間の感性こそが、心の基本であり、その心が、平和に繋がるのではないだろうかと、意欲的に巨大な作品を描き続けている。